

原発ゼロの声のエネルギーは核の火を越える！

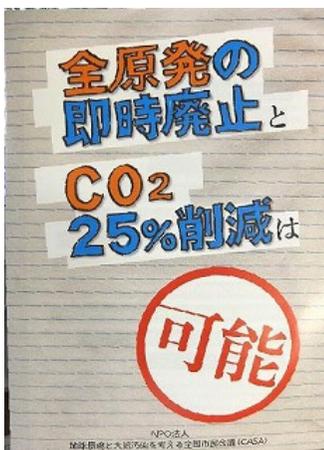
2013年3月10日(日)、原発ゼロの会・大阪も参加する「さよなら原発 3・10関西2万人行動実行委員会」は、“大飯原発すぐ止めろ！”“全ての原発を廃炉に”をスローガンに、大阪・中之島公園内の剣先公園、女神像前、水上ステージの3カ所で集会を開催し、集会後は関電・御堂筋・西梅田の3コースに分かれてデモを行いました。CASAとPARE(自然エネルギー市民の会)の有志20人余りが剣先公園の集会に参加しましたので、その報告をします。

午後12時30分、中之島公園に集合。CASAとPAREのスタッフは一週間余り前から、当日配布パンフレットとバナー・プラカード・展示パネルの準備をした。



剣先公園のステージ

集合した有志はまず、パンフレットを手に、各自中之島公園の難波橋付近、バラ公園付近、天神橋下剣先公園付近に散らばり、参集して来られる参加者に配ってまわった。



当日配布されたパンフ

配布パンフの内容は、福島第一原発での事故の実態、原発安全神話崩壊、CO₂による地球温暖化は限界に近づいていること、2020年にはCO₂は現在の25%削減が必要で、それは原発無しでも可能なこと、そのために必要なのは再生可能エネルギーであることなどを解説した冊子である。これは「原発再稼働なしに25%削減は可能」のCASA提言と、2013年版CD資料集「地球温暖化」の内容から作成された。

CAASAとPAREが集めた剣先公園には市民団体・消費者団体・労働組合・政党等が集結していて、思いを込めたバナーやプラカードで埋め尽くされていた。

またCASAボランティアの「シロクマ君」も参加した。天候が悪く寒かったのでシロクマ君のぬいぐるみが暖かそうだった。

折悪しく、午後1時開会の頃から風雨が強ま



シロクマ君

り、パンフ配布が難しい状況になったが、有志みんなで積極的かつ熱心に群衆の中を歩きまわったり、雨のかからない橋の下あたりの公園出入りに陣取ったりして、ほぼ3000枚のパンフ配布をやり遂げた。

雨天ながらどんどん増える参加者は高速道路下の雨のかからない場所にぎっしり詰めかけていた。その中で集会は予定通り進められた。1時からの前段では参加団体の代表らの3分間アピールが行われた。続いて「福島はいま」とい



歌う kayo さん

う報告が「ヒロアクション福島四十年実行委員会」の武藤さんから行われ、また集会を応援し各団体と東北の被災者を励ます音楽を kayo さんがギターで弾き語り演奏された。

集会の終わりには大会決議で、全国の原発を廃炉にし、再生可能エネルギーの普及を政府や



バナー・プラカードを持つ有志



デモ行進開始

日本全国に訴えていく趣旨の決議が満場の拍手で決定された。

午後2時30分近くになって、集会はデモ行進に移った。

CASA と PARE 有志は、難波橋の方へ移動し、裁判所、朝日新聞社前、関西電力本社北から西梅田公園を目指すコースで、各自プラカード、パネルをかざして行進した。

シュプレヒコールは「政府と東電は福島第一原発事故の責任を取れ」、「大飯原発を停止させろ」、「全国の原発を廃炉にせよ」、「原発維持のための電気料金値上げは許さない」などの言葉で、朝日新聞社前、関西電力本社北などでは一層大きな声で参加者は唱和した。尚新聞報道では、主催者発表で約1万1千人の参加者数だった。

今回は、前年度3月11日の扇町公園一万人集会に続いての参加でした。東北大地震と福島第一原発の過酷事故以来、丸二年が経過し、この報告の筆を執っている本日、2013年3月11日現在、今尚苦しむ被災者の皆様を思い、亡くなられた方々への哀悼の気持ちでいっぱいです。昨日の1万人超の集会の熱気は、核の火を上回る平和と安全のためのエネルギーになることを強く念じます。

古畑 等 (CASA ボランティア)